



Glossopteris (Vertebraria)

大陸に特有な二疊石炭紀南半球植物區系 (The antarctic Carboniferous or southern Flora) 一名 *Glossopteris* Flora 又名 *Gangamopteris* Flora なるものがあつた。

本植物區系の重要なる植物要素は *Glossopteris*, *Gangamopteris*, *Vertebraria* であつて、尙 *Phyllothea*, *Schizoneura*, *Noeggerathiopsis* の主要々素を有してゐるが、従來之等の植物は當時氷河の縦横に流れてゐた附近に生じてゐた事、丁度現今の新西蘭土の如き状態で、もあつたかと思はれてゐたが、最近 C. SCHUCHERT 氏や WHITE 氏 (Am. Jour. Sci. 5 ser. XXIV. 1932. p. 405) 等の考によると、丁度洪積世の氷河時代の如く、矢張り暖ひ間氷期なるものがあり、此期間に植物が繁茂したものであると云ふのである。

*Vertebraria* は *Glossopteris* の根莖であつて、最近 J. WALTON, R. WILSON 兩氏の研究 (Proc. Roy. Soc. Edinburgh 52. 2, p. 200. t. 1-2. 1932.) によれば、此莖は第二期肥大生長をやり射出髓を有し木部の假導管には有縁絞孔を有するにより、裸子植物なる事が明となつた、されば *Glossopteris* も *Gangamopteris* も共に羊齒狀種子植物である見當がついたわけである。

## 水 蘚 類 の 化 石

### 小 泉 源 一

一般蘚類の化石は石炭紀以來發見されてあるが、蘚類中でも下等の水蘚の化石は、従來第三紀にさへ見出されなかつたのは不審であると同時に、第四紀初の低溫時代の産物であるから現今も主として高層沼野に繁殖するのではないかと考へられてゐたが、C. A. ARNOLD 氏は Greenland の Disko 島の白堊紀か古第三紀の地層から水蘚の化石を發見した。

## 白 瀧 櫻 と 緑 吉 野 櫻

### 小 泉 源 一

大和吉野の白瀧櫻は 濟州島のタンナヤマザクラ (予のエイシウザクラ) (*Prunus*